

# 2023年10月6日 第3446回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 藤村 会長

<斉唱> 「君が代」「奉仕の理想」

<唱和> 「四つのテスト」

<ゲスト紹介> \*文教大学国際学部国際観光学科 教授 海津 ゆりえ 様

\*株法塔ベーカリー 代表取締役 森 勇人 様

<ビジター紹介> \*秦野RC

バストガバナー:佐野英之 様 会長エレクト:郭 根男 様

直前会長:三嶽 聖 様 米山奨学委員長:田口幸代 様 SAA:田中宏顕 様

社会・職業奉仕委員長:山口典彦 様 長澤 健 様 芳賀丈和 様

<誕生日祝> \*岡田 圭太 (H. 2.10. 2) \*鹿島 勇 (S. 22.10. 7)

\*吉田 清 (S. 27.10.11) \*萩原 英恵 (S. 49.10.15)

\*小林 康記 (S. 24.10.16) \*濱田 恵里 (S. 33.10.16)

\*小沢 一彦 (S. 12.10.23) \*小平 一穂 (S. 33.10.28)

\*椿 和香 (S. 43.10.30)

各会員

<入会月祝> ・小佐野 圭三 ・飯塚 進一郎 ・外木 祥司 ・根岸 文彦

・物井 宏介 ・岡田 英城 ・平松 廣司 ・山田 晴史

・鈴木 隆裕 ・角井 駿輔 ・南 裕貴 ・松岡 美里

各会員

<会長報告> \*ガバナー事務所から

・ロータリーレート変更のお知らせ 10月1日から1ドル149円 (現行146円)

・地区ローターアクト委員会のご案内について

10月21日(土)11:00~ 委員会 場所:第一相澤ビル3F「会議室」

・新会員の集い開催のご案内について

12月 3日(日)13:30~19:00 場所:藤沢ミナパーク多目的ホール

<委員長報告> \*瀬戸直前幹事から 2022-23年度会計報告

\*三堀監事から 2022-23年度監査報告

\*ピンクリボン運動特別委員会 椿委員長から ピンクリボンライトアップ報告

\*出席委員会 曾我委員長から9月分出席率報告 平均出席率 73.61%

	会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
9月 1日	119名	108名	77名(3名)	31名	3名	73.39%
15日	119名	107名	71名(0名)	36名	4名	70.09%
22日	119名	106名	78名(9名)	28名	4名	77.36%

<幹事報告> \*週報 横須賀北RCから受領

\*2023-24年度収支予算書について

\*ロータリー米山記念奨学会から「豆辞典」受領

<出席報告> \*出席委員会 曾我委員長から10月6日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メイクアップ数	出席率
119名	111名	79名(4名)	32名	2名	72.97%

メイクアップ: 新倉定治会員 葉山RC例会出席、臼井会員 地区委員会出席

<ニコニコ報告>

・秦野RC パストガバナー:佐野英之様、会長エレクト:郭 根男様、

直前会長:三嶽 聖様、米山奨学委員長:田口幸代様、SAA:田中宏顕様、

社会・職業奉仕委員長:山口 典彦様、長澤 健様、芳賀丈和様

秦野ロータリーの若い会員6名が、佐野PGと三嶽直前会長の引率で国際ロータリー第2780地区のナンバーワンクラブに勉強に参りました。本日は宜しく願いいたします。

- ・三 役 文教大学国際学部国際観光学科 教授 海津ゆりえ様、卓話宜しく願いいたします。
- ・児 玉、木 村、永 井、比 護、福 西、勝 間、前 川、江 口、浅 葉、  
畑、梁 井、松本 侑、中村 備、田 中、小佐野、杉 浦、澤 田、根 岸、前 田、  
斎藤 働、濱 田、平 松、Robinson、岩 崎、中村 田、杵 渕、松本 健 各会員  
文教大学国際学部国際観光学科 教授 海津ゆりえ様、本日の卓話を楽しみにしております。  
どうぞよろしく願いいたします。
- ・三 役 ビジター秦野RC パストガバナー佐野英之様をはじめ皆様ようこそ横須賀へお越し下さいましてありがとうございます。楽しんでください。
- ・小 澤、福 西、北 村、佐久間、前 川、植 田、長 尾、  
中村 備、小佐野、谷、徳 永、小 沢、濱 田、田 邊 各会員  
国際ロータリー第2780地区パストガバナー 佐野英之様、会長エレクト 郭根男様  
をはじめとする秦野ロータリークラブの皆様、ようこそ横須賀ロータリークラブへいらっしゃいました。例会をお楽しみください。
- ・吉 田、小林 働、濱 田、小 沢、椿 各会員 誕生月祝いとして
- ・小佐野、飯 塚、外 木、根 岸、岡田 働、平 松、鈴木 働、角 井 各会員 入会月祝いとして
- ・Robinson、北 村 両会員 誕生月祝いとして（8月・9月）
- ・岡田 働 会員 2780地区ゴルフ大会、第1グループ選手団として横須賀RCから8名参加しました。ご参加頂きました皆様お疲れ様でした。楽しいひと時をありがとうございました。
- ・石 田、大野 働、加藤 働、竹 株、長 島、権 田、勝 間、佐久間、長 尾、  
大 石、高 橋、上 林、岡田 働、齋藤 働、小山 働、田 村、澤 田、鈴木 働、  
飯 塚、濱 田、中村 田、三 堀、勝 見、小林 (-)、角 井、小山 働 各会員  
例会終了後、伊豆熱川への親睦旅行に出発します。米山梅吉記念館にも訪問し楽しい中にもロータリーのことを学べる充実した旅になりそうです。行って来ます！行ってらっしゃい！

<卓 話> 「エコツーリズムとは何か ～ 観光の光と影を越えて ～」

文教大学国際学部国際観光学科  
教授 海 津 ゆりえ 様

エコツーリズムとは何かということですが、第二次世界大戦後の世界にエコツーリズムの発端があります。観光が人々の楽しみとして戻ってきたのは戦後です。復興の過程で、南半球第三世界の途上国といわれるエリアの土地開発、労働力の提供を行いました。経済拡大の中で観光が盛んになり、その結果いろいろなことが起きました。ひとつは環境に対する負荷、1950(昭和25)年代になると環境主義、地球意識が芽生え

ました。「宇宙船地球号」というキーワードは、バックミンスター・フラー（物理学者）が提唱したものです。1972（昭和47）年になると「成長の限界」という本がローマクラブ（Club of Rome）から出され、将来も現在のような人口の爆発的増加と経済成長が続いたら100年以内に地球の成長は限界を迎えるというものです。これらの背景から、1972（昭和47）年にストックホルムで「国連地球人間会議」という環境問題をテーマにした初の国連会議が開催されました。ここで世界遺産条約の採択等がされ、これが初めて環境、南北問題を取り上げる画期的な会議になりました。1987（昭和62）年にブルントラント委員会で取りまとめた本の中で、初めて「持続可能な開発」という世界共通のキーワードが記載されます。1992（平成4）年にリオデジャネイロにおいて南半球で初めての国連会議が開催され、ここでのテーマが持続可能な開発です。アジェンダ21を採択、その後ヨハネスブルク、そして2012（平成24）年にリオでこの国連会議が開催されました。



海外におけるエコツーリズムの誕生は、課題克服手段として普及した概念です。エコツーリズムというと、自然豊かな所に行く旅と想像しがちですが、エコツーリズムという言葉そのもののルーツはもう少し深いところにあります。観光が大衆化する影響として、経済、自然環境、地域社会、伝統文化への影響があります。1960（昭和35）年頃からガラパゴスなどの自然豊かな所をどのようにして守っていくのか、主に社会学者とか観光社会学の分野の人たちから、行き過ぎた観光の反省が多く概念を生み出しました。もうひとつの観光（Alternative Tourism）・責任ある観光（Responsible Tourism）・環境配慮型観光（Ecological Tourism）・倫理的な観光（Ethical Tourism）・開発をしない観光（Soft Tourism）。環境配慮型観光エコロジカルツーリズムが縮まってエコツーリズムになりました。東アフリカは高額なハンティング観光がブームとなり野生動物の絶滅が危惧され、野生生物は殺さずに見て学ぶサファリ観光が主流となりました。国際自然保護連合によるエコツーリズムの定義は、自然保護地域のために十分な資金を生み出し、地域社会に雇用の機会を創出し、旅行者に環境教育の場を提供することによって、自然保護あるいは自然保護地域づくりに貢献する自然観察または地域文化を学習する観光としました。カラパゴスでは国家資格を持ったガイドの育成と雇用をし、フェアトレードの価格設定、在来種保護によるコーヒー開発などを進めている農園がいくつもできています。厳重な検疫システムを持ち、研究現場のツアー化もしています。コスタリカでは、国家予算の25%を環境保護と教育に充て、民設自然保護区でエコツアーが発展しています。

エコツーリズムという考え方が日本に導入され始めたのは1990（平成2）年代に入ってからです。最初は西表島、屋久島、小笠原などでした。西表島の復帰後の島おこしとしてのエコツーリズムが始まり、島民により推進組織が設立されました。次が小笠原です。ホエールウォッチングを1988（昭和63）年から始めたものがエコツアーとしては理想的なものと考えられています。ガイドの養成、資源管理、ルール作り、そして東京都がプロモーションするという事などをそろえて進めています。1993（平成5）年、屋久島で若者たちが会社をつくり、エコツアーガイドというビジネスモデルを作成しました。屋久島はガイドが増え過ぎ、2017（平成27）年からガイド試験で認定をするという仕組みを整えています。

日本のエコツーリズムの概念を整理すると、海外では「課題解決型」ですが、日本は「地域づくり」（観光推進、資源保全、地域振興）です。エコツーリズムの推進体制（5つの主体）は、地域住民、行政、旅行者、旅行業者、研究者です。エコツーリズム推進法は、地域で全体構想を考え報告書を国に提出し認められると、国が広報してくれるというメリットがあります。今では26地域が認定されています。エコツーリズムを進めたい地域に必要なことの要件は4つで、①地域の宝探し（地域で大事にされているもの、自慢したいもの）をやる、②ガイドを養成する、③保全と利用の両立をする仕組みを整えること、そして運営するための④体

制や予算を持つことです。エコツアーのリピート率は80%を超えていて、その地域に繰り返し人が来てくれます。エコツアーは万能ではありませんが、行っていく価値があります。自然地域だけではなくて里山のエコツーリズム（市民総ガイドを目指す埼玉県飯能市）や、震災復興手段としてのエコツーリズム（岩手県宮古市）は非常に力がありました。ジオパークとのつながりとしての大島、ロングトレイル、アドベンチャーツーリズムというところでいろいろな地域の自然が開拓され、伝えられるような仕組みができています。こういう場所でガイドをつけながら進めていくということで、地域のいろいろな小さな資源が生きてくると思います。ぜひ次の旅はエコツアーのご検討をよろしくお願いします。ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 藤村 会長

週報担当 渡辺 努